

平成21年度 和歌山県文化功労賞

すが はら まさ あき
菅 原 正 明

住 所：和歌山県紀の川市

出 身 地：山形県鶴岡市

生 年：昭和17年

◎業績及び経歴

昭和17年山形県に生まれる。昭和45年明治大学大学院文学研究科(史学・考古学)を修了。奈良国立文化財研究所に勤務し、平城京・藤原京・飛鳥などの発掘調査に携わる。

昭和62年から財団法人和歌山県文化財センターに勤務し、文化財行政の第一線で数多くの遺跡調査をはじめ、文化財の普及啓蒙などに取り組む。

道成寺、紀伊国分寺、根来寺、高野山真然堂など数々の寺院遺跡の発掘調査に携わる中で、その背景にある人々の祈りの姿にひかれ、日々の仕事と平行して様々な史料・資料をひもとき研究を進めるようになる。

氏の研究は、史料・記録を丹念に読み解いていく史学的アプローチと、発掘された遺跡、遺物などあらゆる材料を綿密に分析する考古学的アプローチの両面を駆使して、時代の姿を浮き彫りにしていくものであり、その視点は、当時の寺院の姿や寺院を取り巻く社会情勢のみならず、寺院と関わり合った庶民の生活にまで及んでいる。

これらの長年にわたる研究を平成13年に「祈りの造形」、平成14年に「久遠の祈り」そして平成16年に「祈りの姿」とそれぞれ副題をつけた全三巻の著書『紀伊国神々の考古学』にまとめて発表した。「祈り」を通して、紀伊国に生きてきた人々の姿を浮き彫りにした研究は大きな反響を呼んだ。

なお、こうした研究活動の一環として取り組んだ「中世根来寺の復元的研究」については、全国多数の応募の中から三菱財団の人文科学研究の助成を受けるなど、高い評価を受けている。

現在は、妹背山護持顕彰会の顧問として和歌山市和歌浦にある妹背山多宝塔の経石調査に携わり、15万個にも及ぶ経石の解読に取り組んでおり、長年にわたる考古学の研究を通して、本県の文化振興に寄与した功績は計り知れない。

■現在

考古学研究者

妹背山護持顕彰会顧問

■主な表彰歴等

昭和41年 明治大学駿台史学賞